

安

全

安全は身近なところから

健康づくりを進めていくうえで、その基盤となるのが、日々の生活を安心して暮らせることです。日常生活の中で心がける事故防止や地震等災害の際にも役立つ救命法を習得することが望まれます。

乳幼児期・児童期・思春期・青年期・壮年期・高齢期.....安全

めざすべき姿

安全は身近なところから

個人の取り組みの方向

乳幼児期

- 乳児期のうつぶせ寝をさせないようにしましょう
- 頭や体をはげしく揺さぶらないように気をつけましょう
- 子どもの誤飲事故を防ぎましょう
- 子どもの前で喫煙しないようにしましょう
- 家の中の事故防止対策に取り組みましょう
- 車に乗せるときはチャイルドシートを着用しましょう

児童期・思春期

- 危ない事柄に対する認識と判断能力を養いましょう
- 周囲の人に助けを呼べる力をつけましょう
- 交通安全に自ら気をつけましょう

青年期・壮年期・高齢期

- 交通安全に自ら取り組みよう
- 転倒予防のための体力づくりをしよう
- 転倒予防のための住居の環境整備をしよう

行政・健康関連団体等周囲の支援の方向

乳幼児期

- SIDS 予防や事故防止の情報提供
- 母親教室や乳幼児健診などの機会での安全についての普及啓発
- 関係機関との連携による子育て中の家庭の防災教育、情報提供

児童期・思春期

- 家庭や学校、地域、関係機関が協力して子どもたちの安全対策に取り組む体制づくり
- 危険箇所のチェックと公表による情報提供

青年期・壮年期・高齢期

- 転倒予防教室などの機会の提供
- 地域や職場での救命法の習得や防災教育などの情報提供体制づくり
- 地域、職場、関係機関が協力し防災教育の普及

目標項目（指標）	対象	現状値	目標値
乳児期にうつぶせ寝をさせている親の割合の減少	乳幼児保護者 就園児保護者	17.6%	0%
子どもの前で喫煙する親の割合の減少	乳幼児保護者 就園児保護者	36.2%	0%
ゆさぶられっ子症候群を知っている親の割合の増加	乳幼児保護者 就園児保護者	52.8%	100%
不慮の事故で救急搬送された乳幼児の数の減少	0～5歳児	40人	減少へ
事故防止対策を実施している家庭の割合の増加	乳幼児保護者 就園児保護者	72.6%	100%
転倒による骨折・打撲をした人の割合の減少	60歳以上女性	21.1%	減少へ
心肺蘇生法を知っている人の割合の増加	乳幼児保護者 就園児保護者	47.1%	100%
	成人	49.4%	100%
けがなどの応急手当を知っている人の割合の増加	成人	49.3%	100%

